

ずいそう

地方は都会の設備投資

花 原 俊



今年の夏を迎えますと私 70 歳と成ります。

鳥取で生まれ、鳥取で育ち、今まで大きな病気、入院、ケガもせずここまでこられた事を大変喜んでいます。

地域の方々、会社とここまで取引して頂き、付き合っ
て頂いた関係者の方々、何よりも一緒に働き努力をし
てくれた職員に感謝する次第です。

“鳥取”は本当に良い所です。でもその鳥取に今変
化が生まれています。ここ 2～3 年地方ではいずこも
同じだと思いますが、求人を出し、人を募集しても、
就職希望者がこないのです。何年か前までは就職時期
を迎えますと、毎日の様に学校から連絡があり、泣く
様に担任の先生から面接の御願いが有りました。

しかし今では一度も誰一人、募集しても来ないので
す。

聞くとところによると、就職率 95%、実業高校でも
大学進学率 65%との事で、これが実体、無理もあり
ません。

考えてみますと、全国地方の子供を持つ親は、毎日
毎日一生懸命働き、都会に出た学生に仕送りをし、4
年間支援をしています。

しかし、いざ卒業しても地元には帰らず、都会に就
職を求めて定住します。

自県に帰ってくる人は何と 20.7%との事です。

これではまさに、地方が都会を支え、地方が都会の
為の「設備投資」なのです。

会合の時に私はよく口にする事があります。

地方は都会への設備投資、これは大きな意味がある
のです。若者は地方に帰らず都会に根を下ろします。
設備した金は返るどころか、税も消費も全くないので
す。それどころか、町から若者がいなくなり高齢者ば
かりに成ります。国全体も人口は一年に 100 万人近い
数で減っています。他人事ではなく、特に地方にお住
まいの方々、自分の事と受け止め、真摯に取り組む時
と考えます。地方は良い所が沢山あります。地方があ
ってこそ都会があるのです。一人でも流出を防ぐ、そし
て地方の時代を作っていく事を皆で努力しようではあ
りませんか。

当社では鳥取の地で 53 年間、大手建設機械メーカ
ーの販売及びサービス（修理）の代理店を続けています。

建設工事関係の機械メーカーは、次々と新機種の発
表、モデルチェンジに加え、人と地球に優しいエンジ
ンの開発に努力し、いち早く市場に導入してきます。
我々サービス工場は日々勉強会の中で対応しなくては
有事対応出来ません。人を育てる技術を身に付けてこ
そ、お客様に迷惑をかけぬ様しっかりとしなければ成
らないのです。これからの時代、立派な技術者を作り、
サービス工場の確立、維持が問われてきます。

一人でも県外流出を止め、都会の設備投資を続ける
事なく、努力していく、そして地方から、物造り、直
せる物は直して再使用するその技術を作り上げていか
なくてははいけません。壊れた物は捨てる、新しい物を
買えばいい、そんな時代は終わりにきています。物を
大切にするその心は幼少期の時から教え物を大切にす
る心を教えていく必要があります。

その為にもどんな部門でも直す技術は必要となりま
す。若者が一人でも多く技術者の道に進むことを毎日
願うばかりです。

売るだけではなく、末長く保守点検をし、愛車とし
て使って頂く事、それらを守らせて頂く仕事を末長く
続けていく考えは変わりません。

県や市、商工会も色々と対策を考えている様ですが、
未だに人材不足に効く良薬は無い様です。我が社でも
サービス（修理）マンの育成に頭が痛い事です。

これから人は減少し、職人と言われる、“物造り、
物を直す仕事”に就く人はいるのだろうかと思うと心
が痛みます。

若い技術者が町からいなくなる、修理すれば再生可
能な物まで置き去りにしてしまう、そんな時代が来る
のではと思う毎日です。

今年も同様 3 名の募集をしていますが、はたして来
てくれる学生はいるのか今から心配でなりません。今
後この地に“人”の設備投資は生まれるのでしょうか。

県民上げて考える時ではないかと思っています。

私の机の上には、30年程前に某機械メーカーの鳥取支店社長が鳥取を離れる時残して頂いた、お釈迦さまの言葉があります。

この筆を読んで頂いた方、この言葉に一度目を通して頂き、老若男女、今からでも遅くはありません。

私は、何事についても向かっていく事を忘れず「現状打破」に挑戦し、迷い考えこむ時はいつもこの言葉に目を通しています。

原点に返って自分を一度見直してみてもいいでしょうか。

私はこの言葉が大好きです。

『現状打破』

お釈迦様は

「もろもろの現象はうつりゆく、怠らず努力するのが良い」

と言っておられます。

これは世の中は万物流転どんどん変わっていくのだ、だからこれでいいと言う事は「絶対」にないのだといっているのです。

我々の仕事においても常に原点に返って出直すことがつまり「現状打破」が必要でありそれだけ進歩につながるのです。

現状はある意味で非常に「居心地」のよい世界ですから、これを打破する勇気がいるのです。

しかしそれをしなければ負けてしまうのです。

——はなばら たかし 三洋重機㈱ 取締役社長——

